「出土遺物から見た下宿の生業」

清瀬市郷土博物館 東野豊秋

1. 資料による清戸下宿村の様相

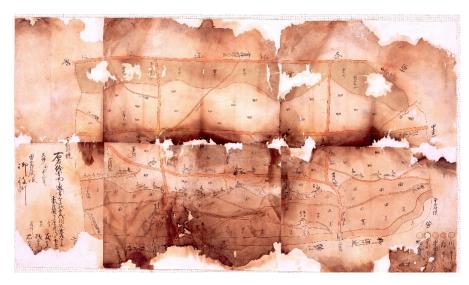
『新編武蔵風土記稿』(19世紀初め)

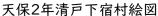
民軒六十軒、平夷の地ナリ

土性黒土ニテ用水は柳瀬川ヲ堰入ルレド水田ハ少ナク陸田多シ水旱の患ナシ 此アタリスベテ農業ノ外男ハ薪を採り、女ハ木綿ヲ織レドワズカニ自用トナスノミ・・・

『偵察録』(明治 13 年) → 陸軍参謀本部が実地調査した報告書、当時の村落の実態、生業などが記されています。

人口 421 人 個数 72 戸 社寺4か所 耕地 田15町 畝65町 林115町 収穫 米65石 麦94石 雑穀7石 琉球薯 81斤 家畜 駄馬 5頭 鶏4匹 水車 搗米1か所







明治19年迅速測図(拡大)

江戸時代から明治期には水車が営まれ、天保年中の村絵図やフランス式迅速測図では3か所の水車が存在したことがわかります。下宿の名主を務め、初代の清瀬村長となった高橋友右衛門は水車経営を行い、明治10年の第一回内国勧業博覧会では、小麦粉で褒状を授与され、水車の経営を主とした生業を営んでいました。ただこの地域に住む人々の多くは、水田を耕すと同時に、畑作を主とした生業を営んでいたと考えられます。

生産された農産物(中里の農業日記から、明治 17年から19年頃)

稲、陸稲、麦、茶、甘藷、豌豆、ゴボウ、大豆、モロコシ、ウド、大根 (蘿蔔)、菜種、粟、藍、蕎麦、桑、蚕 など

2. 出土した陶磁器に記された屋号

発掘調査によって出土した陶磁器類の中に、屋号や製品名の記されたものを確認することができました。この中から現在の地名や商店名から所在地などがわかる代表的なものを挙げると、以下のようになります。

肥料農作物関係

志木市・・・浅田肥料 秋元肥料店 三浦屋

所沢市・・・斎藤精麦所

朝霞市・・・種六商店

川越市···青果商和喜多屋

清瀬市・・・渋谷商店

養蚕業

不明……永倉(蚕種創業七周年)

生活用品

所沢市・・・木村製麺所

朝霞市···白川屋酒店

志木市…和泉屋醤油店 三上自転車店 吉埜屋呉服店

新座市・・・・魚久

入間市・・・繁田醤油店

清瀬市…野塩食糧企業組合



出土した製品を器種で見ると湯飲みが大部分を占め、「魚久」の銘の記されるものは皿、ほかに酒杯や大碗(どんぶり)がありました。同一文様のものが複数見つかっているものがあり、セットで配られたものと思われます。また、浅田肥料と記された製品が多数あることから、これらの屋号製品名の記される陶磁器類は、所謂、ノベリィグッズとして、配られた陶磁器であったことがわかります。

3. 志木宿と下宿









浅田肥料の銘の入る資料として、4種類の製品が確認されている。

- 1は外面が無地の湯飲みで、見込みに浅田肥料と記される製品。
- 2は外面に風景文と漢詩を描き、見込みに浅田肥料と書かれる端反りの湯飲み。
- 3 は銅板絵付により外面に文様を描き、見込みには丸枠の中に浅田肥料と記される端 反りの湯飲みである。

4はトモエ肥料特約店、浅田商店、電話志木30番と外面に描かれる、筒形の湯飲みである

トモエ肥料は大正8年(1919)に大日本特許肥料が販売を開始した化学肥料

4 を除いて、配布された時期は特定できませんが、浅田肥料はある程度継続的に、自屋の銘の記された製品を配布していたことが推察されます。

浅田肥料とは

現在の志木市本町にあった肥料商

明治時代初めに、志木の中野地区から移住したと伝えられる。

当初は藍玉を扱う藍屋を営んでいたが、大正以降に肥料業に転換した。

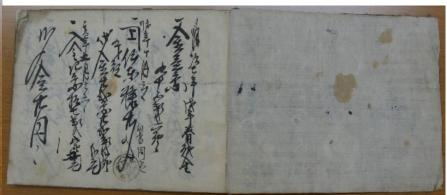
戦中の統制経済下で廃業する。

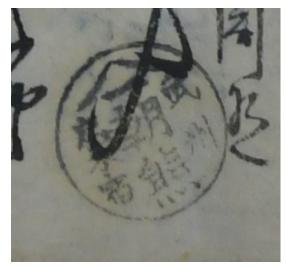
(志木風土記第8集より)

埼玉県下でも屈指の肥料商であった

高橋家文書『現金糠之通』では、明治7年から、浅田肥料との取引があったことがわかります。







高橋家の古文書をみると明治7年から20年代に浅田 熊蔵(浅田肥料)と取引のあったことがわかります。 しかし、明治30年代以降、星野喜之助、西川利三郎と の取引が主となっています。

また、中里の農業日記を確認すると、肥料の購入に志木へ行く記述が多くみられ、当時の所沢町には数軒の肥料商があったようですが、取引をした記述はごくわずかしかありません。

志木には河岸があり、東京や神奈川などから運ばれて きた肥料の荷揚げが行われ、入手しやすい環境などが 整っていたことが要因と思われます。

明治 35 年に刊行された『埼玉県営業便覧』を確認すると、当時の志木町には、14 軒の肥料商が記されていますが、ほかに兼業として扱っていた商家が1 軒あったようです。

志木町肥料商

三上文吉・西川愛太郎・西川文五郎・村山彦七郎・内田清七・西川利三郎・間野スヱ・一ノ瀬幸太郎 西川福十郎・星野喜之助・須田国太郎・浅田熊蔵・星野升太郎・三上寅吉・(西山鉄五郎)

当時の肥料の販売方法として、内金を支払い、半年後に残金を支払う掛け売りがおこなわれていました。 商店にとっては与信を必要とする方法であり、信用する顧客への粗品として、また新たな顧客の獲得のためのツ ールとして、こうした屋号の入る陶磁器が配られたと考えられます。

4. 養蚕業と下宿

幕末から明治にかけて多摩地域でも養蚕業が盛んになってきました。清瀬では、野塩や中里、上清戸で明治10年代に行われていた事が資料から窺えます。『偵察録』の記述では野塩で 1000 円、中里で 500 円の収穫量があったとされています。

蚕の飼育方法

清涼育・・・・空気の流れを取り入れ、自然に近い形で蚕を飼育する方法。年1回、50~55日程度の飼育日数

温暖育・・・・火力を使って、28度から30度程度に温度を保ち、飼育する方法。25日~30日程の飼育日数

清温育・・・・外気と火力を使い、内外の温度差を5~6度以内に保ち飼育する方法。35~40日程の飼育日数







(高山社における火鉢の利用状態)

出土している火鉢は「養蚕火鉢」と呼ばれるもので、瓦質の製品である。温暖育や清温育に際して蚕室の床下に 設置され使用されました。

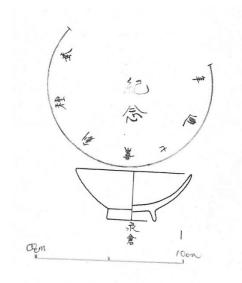
過去に行った聞き取り調査によれば、最盛期の清瀬の養蚕業は、年に4回行っており、生育促進のために暖房が必要であったため、こうした火鉢を用いて暖房を行っていたのです。



高橋家に残された明治 35年の『養蚕飼育日誌』には、養蚕教師から聞いた注意事項が細かに記され、当時の主要な生業の一つとしてなっていたことがわかります。

『養蚕飼育日誌』(高橋家文書)

蚕種業



薄手の磁器坏に金文字で「蚕種創業七周年祈念」、高台内に「永倉」 と記されています。



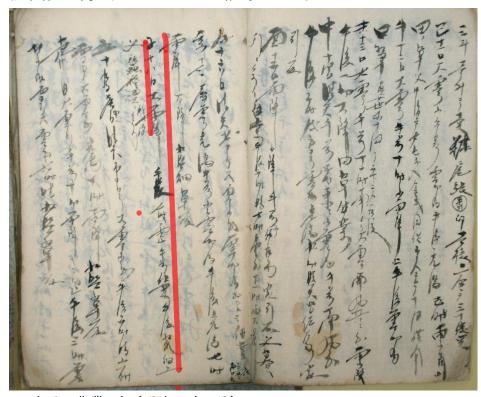


養蚕農家は、蚕の卵を産み付けた種紙を種屋と呼ばれる専門の業者から購入していました。この坏は、種屋が配ったノベリティと考えられます。

清瀬周辺では大和田町に2軒の蚕種屋があったことが史料からわかりますが、永倉という屋号を見つけることはできませんでした。

中里の農業日記では、明治17年8月に所沢で蚕種を購入した記述がみられるほか、民具資料からは小平市の吉澤福太郎、長野県の金田屋、群馬県の桑緑園などから蚕種を購入したことがわかりますが、明治時代には個人での種を購入し、繭を生産し販売を行っていたようです。明治終わりから大正にかけて養蚕実行組合が各地域に組織されるようになると、組合単位で購入するようになり、各農家に配布され、販売も一括して行われるようになりました。

「永倉」という生産者は不明ですが、蚕種創業七周年祈念とあることから、下宿のいずれかの農家が、取引先の蚕種業者から受け取ったものであると推定されます。



中里の農業日記(明治17年8月)

父蚕種買所澤参り子十八日大雨降午後七時雨止午前畑芟午後笊細

工

資料 | 志木市西山鉄五郎家における糠の販売量

	下宿(清戸)		中里		野塩	
明治 16 年	14人	465 俵			2	120
	447.09	447.095 円			124.128	
明治 17年	11	421			1	82
	292.708				61.	.859
明治 18 年	14	430			1	100
	358.912				69.066	
明治 19 年	14	662				
	564.6	İl				
明治 20 年	14	386			I	35
	299.518				35.353	
明治 21 年	3	87			I	40
	64.959				33.333	
明治 22 年	14	543				
	420.356					
明治 23 年	15	640	2	55		
	587.774		60523			
明治 24 年	21	1079	1	120		
	924.24		99.189			
明治 25 年	19	894			1	60
	830.638				52.446	
明治 26 年	20	1124	1	25	1	30
	1019.912		25.202		24	
明治 27 年	18	836				
	838.462					
明治 28 年	19	1034				
	1042.09					
明治 29 年	15	768				
	847.645					
明治 30 年	17	759				
	879.036					

(『志木市史 近代資料編』P236~246を使用して作成)

志木市西山家の糠の商圏は約 12Km に広がっている。

『埼玉県営業便覧』(明治 35 年発行 全国営業便覧発行所刊行 田口浪三著)をトレース

			oxdapsilon	Note:		
温麗 國家	井西原三西 並三星 中星関門原長中坂橋太鈿金高下川林上山三高内木上野 野野根門 沼八島村口本谷田子橋田上野武吉健鐵上上野田平東升小中熊惣清三十岩倉亀茂瑛作商作慶楽寺左 次五源亀長総吉吉太百馬吉次三三十三名 新安城 郎 郎 郎 郎郎郎郎 在 郎成蔵 郎郎郎郎郎 郎郎郎郎郎 衛 郎成蔵 郎郎郎郎郎 明	屋商商商店店商店店店店店店 码製製 商品商品店屋店 造造 造造	ೄ 清 ^{魚湯白菓} 煙肥肥 ^{菓小} 金菓吳 酒 米子草料料子物物子服	為海油數材料魚®荒吳肥肥荒穀料巢穀製青荒飲瀬雜糕雞數週製 編表法造 食木理 物服料料物 理字 粉物物食戶穀 子食漕糸物業業 商店商店商 商太商商商商店屋商業商商店物肥業屋店業 物業 高路 物質	佐平 藤野 ※岸上川川川山 等又定細石前三権部林八文愛清物 代七古 古和留安平派吉十五太次八 時 も カラシステート カー・カー・ カー・ カー・ カー・ カー・ カー・ カー・ カー・ カー・	€
売雞人宝 廿雞吳人青大酢 休明 葉 「古女」 立台發氏部工 木採モ 「新国業園 園園商車園鄉商 西 商	西崎春古語 电点调音 化二氯甲基乙基苯甲基甲基甲基甲基甲基甲基甲基甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲	為料理店 料理店 ®		小建下業綿乾寒蒸瀬間具敷子 物子種河物聯商屋商商屋店物的會會	坂村 「BEA 「BEA THEA T	(中国 国 並木金藍 選 文合版 正面 国 並木金藍 国 立 文合版 正面 国 立 立名 医 国 二 立名 医 国 二 二 工程
	7所沢町道	3777 3779 173777		小間物商=量支		活 辦 煎 睇 粵 辦
^魚 肥 ^{豆酒} 医 人酒	星野義治	門屋大和屋	打蓋	[1] [1] [1] [1] [1] [1] [1] [1] [1] [1]		
料 腐 力商 屋屋土車商	四川徳太郎 新井安蔵 山山田 山山田 東田子 東田子 東田子 東田子 東田子 東田子 東田子 東田	Hall	酒足白魚埋水旅		村山彦次郎 池内由太郎	櫛菓 す 穀射 提煎古子 し 的 灯餅物屋屋屋屋屋屋屋屋屋屋屋屋 屋屋 屋 屋 屋 屋 屋 屋 屋 中 並 井 内 三 島 高 横
海 中	金子七五郎武藤金三郎	. TH	200	部 路 高 商	医田紅七	中並 井 内 三 島高 橋 内 田 特 根 田 田 皆 吉 七 財 古 本 郎 田 古 吉 七 北 郎 古 七 太郎 ママ かんりゅう はんしゅう はんしゃ はんしゃ はんしゃ はんしゃ はんしゃ はんしゃ はんしゃ はんしゃ
須 中 田 村	上原重五郎高須義助	響響	位 米 度	9.豆具業肥坑吳 腐服種料具服 18屋店店商商商	#上青八 内田久造 内田惣七	✓ 欧 欧
知	高須庄吉村山新山新石衛門村山新石衛門	冶業 ····································	無 場 場 機	孫朝廷 田本 西 西 西 西 西 西 西 西	海田県 西川下三郎 宮川県大部 井里県大部 井上瀬中次部	西村
	^{星野膏之助} 星野長次郎	層	野 型	群 被 商	森田松太郎國谷啓蔵	福 国 士 商 雛 舊
	機内留太郎単亀喜三郎	盛	上機	肥 禁 層	間野スヱ	公 売 図 藻 篇 端 拌 致 漿 放 歯 酥 葉
	綿製造業 村田新太郎		 	川川河		
	石川のぶ三上恒四郎	闸	軍智智	東 子 屋青 物 商	禁田徳太郎	^{穀 畳} 穀 大穀 ^穀
	飯田館蔵		※ 焼	高 腹 屋 课 子 屋	高橋清兵衛 大村力蔵 監野音太郎	
	。 西川義三郎	□ 洪	水車:	記料商	西川福十郎	_{屋屋} 商 工商店 本横
	須田関太郎	TEH .	쐂	後 5m 單	田中福松 菓子屋	本下勘蔵 西川福 勝河 福 福 本下石蔵 勝河福 本下石蔵 勝河 高橋平太 高橋平太
	飯倉文蔵和智幸次郎として	4位	白 米 油小売	種 大 国	酒詰嘉號 監野甚兵衛 田中久作	嚴照福 勝太 十 五
	小山作次郎宮岡兼吉	正	埋 羧	下	飯田政吉鈴木百太郎	郎郎
			二野	素殖製	長島萬蔵綾井菊蔵	
			本元			
			至炎ル止			